

## 昭和52年度日本気象学会総会議事録

日時 昭和52年5月25日 15.20～16.30

場所 気象庁講堂

出席者 152名

委任状 495名

計 647名

### 開会

小平理事が、総会の成立には、定款第38条により通常会員現在数3063名の1/5、すなわち613名以上の出席が必要であり、委任状によらない通常会員の1/25の123名以上の出席を要することになっているが、委任状が495通きており、この会場に通常会員が現今152名出席されており、計647名で総会は成立すると開会を宣言した。

### 議長選出

小平理事が、議長の選出は、定款第35条で出席会員の互選により決めることになっているが、慣例により大会委員長を議長に推したいと諮ったところ、満場一致で山本政大会委員長が議長に決定した。

#### 1. 議長あいさつ

不慣れではあるが皆様のご協力により円滑にやってゆきたいと思う。総会のあとで記念講演もあるので、できるだけ時間を短かく切り上げたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

#### 2. 理事長あいさつ

岸保勘三郎

気象学会の会員数は、ほぼ順調に増加しており、50年度末からの新規加入者が186名、退会者が84名で差引き102名の増で、3027名となった（ただし団体会員と外国人会員を除く）。

国際交流として特記すべきことは、まず、AMTEXを、昭和49年、50年の2月に南西諸島での観測を終了し、51年11月に東京でAMTEX Workshopを開催したことで、この詳細は天気2月号に掲載されている。また、本年8月末シアトルでIAMAP（国際学術連合気象分科会）総会が開催され、3日間にわたりAir-Sea InteractionのセッションでAMTEXの成果について討議される予定であり、これらの結果をふまえてAMTEXのアセスメントを中心とした報告がGARP Publication Seriesとして発行される予定である。

つぎに、51年10月に筑波大学において「気候変動と食糧に及ぼす影響」に関する国際シンポジウムが気象学会後援で開催され、その報告は天気3月号に掲載された。

また、第1回地球大気開発計画—First Global GARP Experiment（略称FGGE）は、昭和53年から準備観測が始められ54年1月～2月に特別観測Ⅰ、5月～6月に特別観測Ⅱが実施される予定で、本年7月中旬に上げられるわが国の静止気象衛星GMSは、気象衛星観測網の一つとしてGARP計画に重要な役割を果たすことが期待されている。また、気象庁はGARP計画の中でアジア地域のデータセンターの役目も行なう予定になっている。さらに、MONEXへの参加として特別観測期には気象観測船を南太平洋に出す予定になっており、また、POLEXへのわが国の参加も検討されている。

静止気象衛星のデータ利用に関し、昭和53年秋にWMOの第Ⅱ、第Ⅴ地区のセミナーが東京で開催される予定で、これに引続いて、WMO、IAMAP、COSPAR（宇宙研究委員会）、日本気象学会共催のシンポジウムが計画されており、学会宛にWMOから正式に要請があれば、気象学会内に組織委員会を発足させることとなる。

気候変動の力学的機構を明らかにするための研究計画—Second GARPは、1980年代を目標にして現在その準備が進められており、FGGEによる全地球的データの活用は季節変動という観点で大いに役立つものと期待されている。FGGE、Second GARPに関連して日本でも研究面での貢献が今後の重要な問題となると思われるので、気象学会としても研究の推進に努力してゆきたい。

長期計画委員会では、12年前に気象学会で作成した「気象学会の長期計画面案」の見直しを行なっている。当時の計画面案は大筋としては現在でも今後の方向を示すものであるが、最近問題になってきた「環境問題」はこの計画面案には述べられていない。このようなことも含め、新しく見直しの作業をすすめている。このまとめは報告の形で天気に掲載したい。

新たに発足した「教育と普及のための委員会」は、その後計画を進めており天気に増頁して基礎講座を掲載することを考えている。

（代読 小平信彦）

#### 3. 気象学会賞授賞

神山理事から選定理由の紹介があり、満場拍手のうち小平理事長代理から、つぎの会員に賞状、賞牌、賞金が授与された。

菊池幸雄会員：ブロッキングに関する研究

#### 4. 藤原賞授賞

神山理事から選定理由の紹介があり、満場拍手のうちに小平理事長代理から、つぎの会員に賞状、賞牌、賞金が授与された。

吉野正敏会員：局地気候に関する研究および気候学の発展、普及につくした貢献

#### 5. 昭和51年度事業経過報告

小平理事から、つぎのとおり事業経過報告が行なわれた。

(1) 昭和51年度には、気象学会の重要な事業の一つである出版物の発行は順調に行なわれた。すなわち、天気は23巻3号～24巻2号、気象集誌は54巻2号～55巻1号、ノートは129号～130号まで発行した。

(2) 昨年度から天気および予稿集に広告を入れることとし、学会の財政に一部寄与してきたが、一応定着しつつある。

(3) 学会賞、藤原賞は、2名の方々にそれぞれ贈呈された。また、奨励金は、昨年秋の大会で山田幹夫会員、力武恒雄会員および松村三佐男会員にそれぞれ贈呈された。

(4) 夏季大学は、年々盛会となってきており、昨年は、118名の参加者があった。

(5) 予稿集の提出時期と、気象集誌のページチャージの規定を変更して1年経過し、一応新しいシステムが定着しつつあるが、今後ともその経過を見てゆきたい。

#### 6. 昭和51年度会計決算報告

松本理事から、第1表の決算書についてつぎのように説明があった。

昭和51年度の学会財政は、気象研究ノート等の会費外収入の増加と、文部省からの助成金の増額および在庫印刷物の頒布に努めた結果、順調に経過した。このため、翌年度への繰越金は大幅に増加し、前年度に比較しやや財政上のゆとりを生じた。

しかし、気象集誌と天気の刊行に伴う印刷費、編集費の支出が会員収入よりも多くなっているため、会費収入のみにより学会を運営することは不可能となる。幸いにして、51年度は、会費外収入が多かったため順調な経過となったが、52年度以降は印刷費の高騰、人件費の増額を考慮に入れると、会費の値上げも考慮しなければならぬようになる恐れがある。

#### 7. 昭和51年度会計監査報告

藤田監事から、つぎのとおり監査結果が報告された。

(1) 監査月日 1977年4月26日

(2) 監査場所 東京都千代田区大手町1-3-4  
日本気象学会事務局

(3) 監査内容

ア. 1976年度決算書

イ. 出納簿（金券、振替、現金）

ウ. 領収証綴

エ. 預金証書および普通預金通帳（現在高証明書）

オ. 郵便振替受払通知書

カ. 国庫金送金通知書綴

キ. 備品台帳

(4) 監査意見

監査の結果、1976年4月1日より1977年3月31日に至る会計年度の決算書は正しいものと認める。

書類の記帳は正確であり、整理も極めて良好であり、備品台帳も整備された。

会費の収入状況は良好であり、会費前納者は、約95%だった。今後とも会費の100%前納を旨とし努力されるよう期待する。

(5) 付帯意見

気象研究ノート定期購読者に対する頒布価格は、これら購読者が、見方によっては、気象研究ノート定期購読会員とも言えるので、財政の許す範囲内で引下げが望ましい。

事務局業務は、事務の能率化、簡素化を計っており、このため財政的に寄与していることを多とする。さらに努力し、学会財政の健全化を計るよう希望する。

議長が、以上5から7までについて質問のある方は挙手をするよう促したところ、監査結果の付帯意見の気象研究ノートの頒布価格について質疑が集中した。すなわち、引下げるべきである、引下げるべきでないとの意見に分かれた。

これに対し、奥田担当理事がつぎのように回答した。

(1) 気象研究ノートの価格を決める時、会計理事と相談する。

(2) 原稿料が現在のところ安くなっているため、改善して貰うようにする。

(3) 監査の指摘を忠実に守っていいものを安く頒布するようにしたい。

(4) 今回の気象研究ノートの増収は、過去の未収分、

第1表 昭和51年度決算書

収入の部			支出の部		
科目	金額	内訳	科目	金額	内訳
会社誌 雑誌 気象研究ノート 予稿集 その他 文部省助成金 雑収入 前年度繰越金	21,481,032 20,292,293 15,596,393 1,253,198 3,442,702 1,500,000 7,186,028 12,567,500		印刷集費 気象集誌 天象集誌 気象研究ノート 予稿集 会名簿 会購入費 図書通信費 図送通信集誌 気象集誌 天象集誌 気象研究ノート 一般通信費 会談会賞賞金 学藤原励支事 人物品件印刷費 雜旅退予次 年度繰越金	23,571,286 5,885,055 10,955,011 5,268,470 920,250 542,500 251,210 2,624,803 287,560 1,168,096 402,210 766,937 1,027,080 140,000 70,000 150,000 1,005,600 8,133,751 4,140,778 2,564,023 1,428,950 53,000 26,000,123	54/2~55/1 23/3~24/2 129~130
合計	63,026,853		合計	63,026,853	
基金 職員退職立金 藤原賞基金		650,000 120,000 1,500,000			
合計					繰越金の内 10,274,500円 52年4月~12月分の前納会費

第2表 昭和52年度予算書(案)

収入の部			支出の部		
科目	金額	内訳	科目	金額	内訳
会費	20,907,700	昭52.2.1現在 会員数 1,862名	印刷編集費	27,338,100	年間 500頁
A	6,387,500	" 1,089名	気象誌	5,545,700	" 780頁
B	7,476,000	" " 16名	天気	10,849,800	" 720頁
学生	35,200	" " 42名	気象研究ノート	9,642,600	
A	184,800	" " 4名	予稿大集	1,000,000	
B	17,200	" " 114名	夏季大会	300,000	
外国在住	980,400	" " 291名	入会費	250,000	
A	1,571,400	" " 194名	図書購入費	4,317,400	
B	2,095,200	" " 33名	送付費	633,600	
団体	2,160,000	" " 計 3,645名	気象誌	1,732,800	
A	15,271,100		天気	951,000	
B			気象研究ノート	1,000,000	
賛助会費			一般通信費	895,000	会議費の内 550,000円は、 総会、大会費
雑誌図書頒布			学会賞	70,000	
気象研究ノート	11,571,100		藤原賞	70,000	
予稿集	1,500,000		奨励金	150,000	
その他	5,000,000		支部交付金	1,000,000	
文部省助成金	26,000,123		事務局費	6,754,200	7万円+(350円×会員数)
雑収入			人件費	4,304,200	
前年度繰越金			物品・印刷費	1,000,000	
			雑経費	1,450,000	
			旅費	375,000	
			退職金	100,000	
			予備金	300,000	
			翌年度繰越金	27,059,223	繰越金の内 10,745,200円は 53年4月～12月分の前納会費
合計	68,678,923		合計	68,678,923	
基金	650,000				
本職員退職立金	120,000				
藤原賞基金	1,500,000				

また、128号、129号のように頁数の多い、比較的価格の高いものがよく売れたため、これが定常的とは言えない。したがって、手放して喜んでいるわけにもいかない。

以上質問者了承。

このほか、支部活動を盛んにするため交付金を増やすべきであるとの要望がでた。

また、昨年度も取り上げられた、ページチャージの負担についての質問があったが、これに対しては個人で負担することとなるものについては何とか考慮するとの回答で了承された。

議長が、昭和51年度事業経過報告、同決算報告、同監査報告を一括して採決すると宣言し、賛成者の挙手を求めたところ、全員賛成で承認された旨報告した。

#### 8. 昭和52年度事業計画

小平理事からつぎのとおり事業計画の説明が行なわれた。

定期刊行物は、天気、気象集誌、気象研究ノートをそれぞれ充実したものとしてゆくが、とくに気象集誌は、文部省へ申請のページ数を下廻らないよう努力してゆきたい。本年度から新たに教育と普及委員会を発足し、夏季大学を含めて「やさしい解説」欄を天気に設けるなどして積極的に運動を推進してゆくこととした。

天気と気象研究ノートの原稿料を刷上がり1ページ880円から1200円に値上げすることとした。一般の原稿料に比べるとまだ大変安い、財政上の制約もあるのでよろしくご協力をお願いします。

地方における大会のあり方については引き続いて検討してゆく。また、天気に論壇を新設し、広く会員の投稿を募り自由な意見発表の場としたい。

#### 9. 昭和52年度予算案

杉本理事から、第2表の予算案について予算編成の方針と内容について、つぎのとおり説明が行なわれた。

昭和51年度は、会費外収入の確保に努めた結果、今年度への繰越金は、本年4月から12月までの前納会費1,027万円を含めて2,600万円となった。また、会員数も本年2月1日現在で3645名となり、昨年に比べ200名の増加となった。

いっぽう、印刷編集費は、前2か年据え置いたため、業者の強い要望もあり、学会としても慎重に検討を加え前年度に比し約10%の値上げを認めざるを得なかった。さらに、本年は、学会事業の一つの柱として教育普及に力を入れる方針が理事会で決まり、天気誌上での解説記事の充実を計るとともに、夏季大学講座にも精力的に取り組むことになった。そのため、印刷編集費において約2,730万円の支出が見込まれ、昨年度より約400万円の支出増となる。

以上のように、支出の増加により運営は、昨年度に比しやや苦しくなるが、諸経費の節約を計ることとし、会費は、今年度に限り据え置くこととして予算案を作成した。

議長が、昭和52年度事業計画、同予算案について質問があれば挙手をするよう促したが、とくに質問はなかった。

質問者がいないので採決すると宣言し、賛成者の挙手を求めたところ、賛成多数で承認された旨報告した。

#### 10. 次期当番支部

昭和53年度の当番支部は、東北支部とすることに決定した。

議長より、これで全議事を終わる、ご協力に感謝するとの挨拶があった。